令和８年度日本大学生物資源科学部入学者選抜

総合型選抜１次選考　小論文課題一覧

作成した小論文（Ａ４サイズ，１５００字程度）に学部より配布した表紙を添付して提出すること。なお，Microsoft Word や Excel 等の使用を可とするが，海洋生物学科に限っては，自筆で書くこと。また，小論文の作成にあたり参照・使用した資料を添付してもかまわない。

バイオサイエンス学科

現代社会は「いのち」に関連した課題を多く抱えている。これらの解決に遺伝子のはたらきや機能を制御できる「バイオサイエンス」が大きな力を発揮する。

現在、社会的に問題となっている課題を一つとりあげ、バイオサイエンスを活用した解決法を自ら考えて述べなさい。

動物学科

昆虫は進化の過程で非常に多様な形態をもつようになった。この昆虫の持つ口器の違いを食性に基づいて論じなさい。

海洋生物学科

これまでの学校生活や家庭での体験の中で、あなたが関わった「魚に関する出来事や学習経験」（例：漁港や水族館の見学、魚の飼育、魚を使った料理や買い物の体験など）の中から、印象に残っているものを一つ挙げなさい。その経験をふまえて、現在ある水産資源をより有効に活用するための具体的なアイデアを提案しなさい。また、そのアイデアを実現するために、本学科でどのような知識を身につける必要があるか、さらに、どのような実験や実習を通してどのような技術を習得すべきか、あなたの考えを述べなさい。（1500 字程度）

※小論文は手書きで作成すること。

※小論文内で１つ以上の図を用いること。図は 100 字相当として換算する。

※参考文献から引用する際には「書籍名・サイト名」を明記すること。

森林学科

近年、気候変動の地域における影響が世界各地で報告されています。我が国においても、気候変動の影響を森林が受けた結果としての土砂災害や森林火災などが多く報告されています。実際にあなたが見聞きした災害の具体的な事例を挙げ、それに対するあなた自身の考えを述べてください。

環境学科

現代日本において、都市部では、ヒートアイランド現象や都市型水害などへの対応が課題となっています。一方、地方部では人口が減少し、地域コミュニティや社会基盤設備（インフラ）の維持が課題となっています。また、日本全体では、今後も人口減少が進んでいくものと予測されています。居住にともなう環境への負荷を低減させるという観点から、どのような方針でまちづくりを進めていくのが望ましいと思いますか。都市部または地方部どちらかを取り上げて、あなたの考えを述べなさい。

アグリサイエンス学科

表 1 は、2022(令和 4)年、2023(令和 5)年および 2024(令和 6)年の地域別の水稲うるち玄米 1 等比率を示している。図 1 は、わが国の年平均気温偏差の経年変化（1898 年～2024 年）を示している。

これらから、

（1）最近の稲作上の問題点を読み取り、それを 100 字程度で記しなさい。

（2）その問題点を解決するために講ずるべき手段を考え、それを 1500 字程度で小論文にまとめなさい。

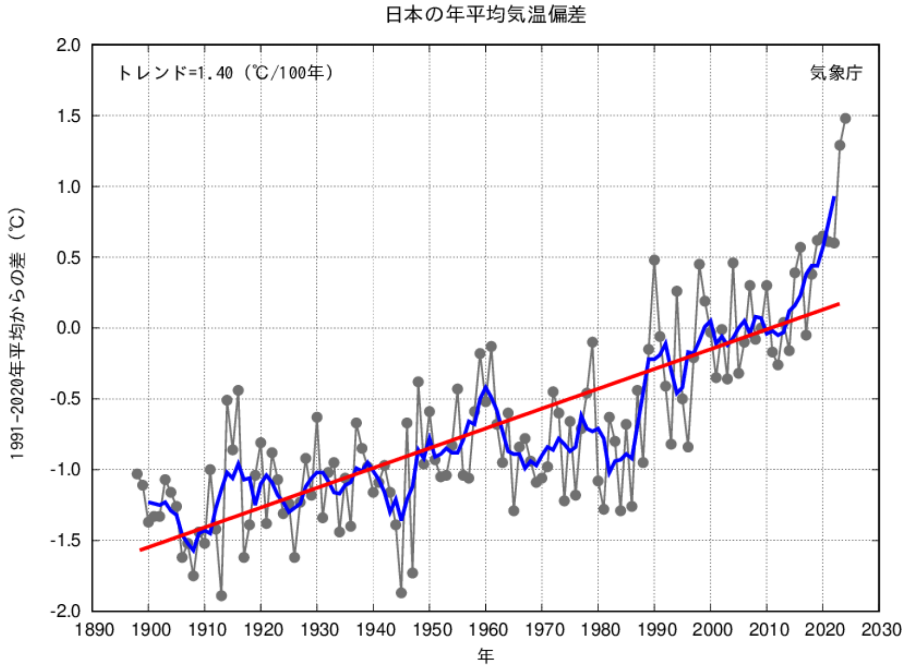
小論文作成に当たっては、国ならびに都道府県等官公省庁発行の統計や数値データの図表資料を参照してよい。その際は、参照した資料の出典を小論文の後に明記し、その資料も小論文と共に提出しなさい。

表 1　地域別の水稲うるち玄米 1 等比率（2022(令和 4)年、2023(令和 5)年および 2024(令和 6)年）

	2022 年	2023 年	2024 年
北海道	91.5%	87.4%	91.2%
東北	93.3%	67.0%	90.7%
関東	83.2%	73.4%	72.2%
北陸	78.8%	37.6%	81.7%
東海	54.0%	42.1%	34.9%
近畿	60.1%	52.0%	49.2%
中国四国	58.2%	59.8%	53.6%
九州	31.6%	41.2%	29.1%
沖縄	40.9%	51.1%	45.8%
全国	78.6%	60.9%	75.9%

出典　農林水産省（2022 年と 2023 年は確定値、2024 年は速報値（2024 年 12 月 31 日現在））

図 1　わが国の年平均気温偏差の経年変化（1898 年～2024 年）



細線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差、太線（青）：偏差の5年移動平均値、直線（赤）：長期変化傾向。
基準値は1991～2020年の30年平均値。

- 正偏差が大きかった年（1～5位）

①2024年（+1.48℃）、②2023年（+1.29℃）、③2020年（+0.65℃）、④2019年（+0.62℃）、⑤2021年（+0.61℃）

出典　気象庁　日本の年平均気温

食品開発学科

人は生きるために栄養を摂取する必要がありますが、栄養成分は適切な量を摂ることが重要で、少なすぎても多すぎても体に良くない効果があります。例えば 18 歳から 29 歳の人が 1 日に必要なたんぱく質の量（1 日当たりの g 数）は、男性で 70g、女性で 55g と定められています。また、食塩の摂取量は、高血圧予防の観点から、15 歳以上の人は 1 日 10 g 未満とすることが望ましいとされています。

そこで、あなたが重要だと思う食品の成分を 1 つ挙げ、その摂取量の重要性（良い効果、悪い効果どちらでも構いません）について述べなさい。また、その成分の量はどのように測定されているのかを踏まえて、適切な量を摂るためにはどうしたら良いか、あなたの考えを述べなさい。

食品ビジネス学科

昨年来、コメが店頭で入手できない、入手できたとしても、以前と比べてかなり高価であるという状況が続いています。このコメの価格高騰の背景を考察し、コメの生産・流通・消費における今後の対応策について提言してください。

国際共生学科

国際共生学科は、グローバルビジネス分野、文化・社会環境分野、情報・コミュニケーション分野から構成されています。この点を踏まえ、あなたが関心を持つ具体的な「共生」課題をひとつあげ、国際共生学科でどのように探求していく計画なのかまとめてください。

そしてその結果、あなた自身がどのような人材になるのかについて論述してください。

獣医保健看護学科

あなたの身近にいる犬や猫（飼っている、飼ったことがある、知人の家で見た、動物病院で見かけたなど）との経験をもとにして、以下の問いに答えてください。

日本には、ペット（犬や猫）の健康と安全を守るため、通称「ペットフード安全法」と呼ばれる法律があります。犬や猫の主食として与えるペットフードを「総合栄養食」と呼び、５大栄養素がバランスよく含まれ、適切な原材料、保存料、成分規格が守られて製造・販売されています。しかし実際には、ペットが総合栄養食を食べず、間食や手作り食ばかりを食べる例もあります。そこで以下の２つの問いに答えてください。

（1）総合栄養食を与えることのメリットを、あなたの実体験や身近な例を交えて、「ペットフード安全法、５大栄養素、原材料、保存料、成分規格」の５つのキーワードを必ず使って説明してください。

（2）あなた自身の経験や発想から、間食や手作り食しか食べたがらない犬や猫に総合栄養食を食べてもらうためのアイデアや工夫を、具体的に紹介してください。

以　上